

---

# 夢旅

長門 空

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢旅

### 【Nコード】

N8626A

### 【作者名】

長門 空

### 【あらすじ】

普通の日々に嫌気がさしていた高校生の真斗は、ある日一人の少女と出会った。そこから次々といろいろな事が起こっていく…

## a d v e n t u r e o : プ ロ ロ ー グ

誰でも一度は変わった世界に行きたいと思った人はいるはずだ。

こう言う俺もそうゆう事を思ったことは何度もある。てゆうかいつも思ってる！

だがいまだかつて一回もそういったことは起こっていない。

……………何故だ！！！

っと心の中で叫びながらも毎日を淡々と生きている。

この話はこんな俺のかなり不思議な話である。

## a d v e n t u r e o : プ ロ ロ ー グ ( 後 書 き )

初めて書くので下手かもしれませんが、読んでくれてありがとうございます。

## **a d v e n t u r e 1：初めの日（前書き）**

ここから本編です。最後まで読んでくださいね！

## adventure 1：初めの日

ううん。目に光が入って来て眩しい…。

体を起こして回りを見渡して見ると、いつもと同じ景色があった。

「俺の部屋か…。」

またいつもと同じ朝が来た。変わらない世界変わらない日常………  
退屈だ。

とっ思いつつもまたいつもどおり歯を磨き学校へ行く準備をした。  
朝ご飯はいつもと同じトーストにバターを塗ったやつだ。大体朝はこれですましている。楽だしな…。

そして家を出て学校へ行った。いつも朝は早く起きているので家で朝家族と会うことはあまりない。それと母は朝が苦手で7時半ぐらいにならないと起きてこない。（俺は5時半に起きる。）

何故俺がこんな早く家を出ているのかと言うと、こんな朝早く街を歩くと何か起こるかもしれないと思っているからである。（今まで何も起こったことないけどな）

あつそういえば俺の名前を言うの忘れてたな。俺の名前は坂井 真斗だ。歳は16で今年高校生になったばかりだ。今は5月でまあ学校にもなれてきた頃だ。特に部活には入っていない。

「面白そうな部活ないしな。」

彼女はいないな。

まあ俺の説明はこんぐらいでいいだろ。

「5月なのにまだ寒いなあ。」

と言いながら学校への道をただひたすら歩いていた。学校への道は下り上り下り上りの繰り返しでかなり体力を食うのだ。

「平らな道にしとけよなあ。こんな道に意味が何処にあるんだよ。」  
学校に着いた。疲れてふらふらしながらも、教室に入った俺を迎えるものではなく。席に着いて速攻で寝た。

次起きた時には先生が朝のホームルームで何か話していた。

「誰も起こしてくれないなんで、ヒドい奴等だな」

とか思いながら窓を見て俺は言った。

「はぁ。退屈だ。」

と溜め息をこぼしながら言った。

この日の学校も何か特別事があったわけでもなく、普通に学校が終わった。

「さて、やることもないし家に帰るか。」

俺はこのあと起こることも知らず、学校を出た…

## a d v e n t u r e 1：初めの日（後書き）

楽しかったですか？また書いたら読んでください。



## a d v e n t u r e 2 : 銀色の娘 (前書き)

一年ぶりに書きましたあ。

今頃続きです。良かったら読んで下さい m ( ( m

## adventure 2：銀色の娘

俺は学校の帰り道を歩いていた。

あの上下×2の坂を通り終えて、わき道に入り、全く人の来ない公園を通り掛かった時だ。彼女がいたのは…

俺はいつもどおり、公園の横をスルーしていくつもりだった。（何にもないしな）

ふと何気なく公園を見た。

そして俺は驚いた。

居た…

女の子が居た。

というより、女の子が倒れて居た。仰向けでしかも何故かすべり台の手摺に引っ掛かって居た。

初めは遊んでいるのかと思った。だが違った。

女の子は今にも手摺から落っこちそうなのだ。

俺は血相変えて走った。

「ヤバイ！」

すべり台は入口に近いところにあっただので、ギリギリ間に合った。

丁度すべり台に着いたと同時に女の子は落ちて来た。

慌ててキャッチしようとする。が、失敗…

女の子は俺の頭目掛けて落ちて来て、俺はキャッチ出来ず。クッシヨンになった。

「イッテテテ…」

女の子を見た。

「何なんだ？この娘は…ん？」

俺は思った。

只一言。超 可愛い！と…

髪は銀髪でロングヘア、肌はやけに白くて、見た事もない白い服を着ていた。

顔は少し幼いが、多分歳は同じくらいだと思う。勘だけだな。（俺の勘は良く当たる）

俺はそのあどけない顔に20秒見つめてしまった。

ふと俺は我に帰った。

「この娘何故あんな所に？」

謎だ。てゆうか意味不明。どうやったらあんな微妙な所で引つ掛かるんだ???

彼女は気を失っている。

俺はどうするか迷って、とりあえずベンチに寝かしてあげた。

俺は余った端っこの部分に座った。

「この娘どうしよう」

はぁっつと深くため息をついて彼女をもう一度見た。

ホントに見た事のない服だ。

上は長袖で下は長ズボンだった。しかも服は上下合体していて、真

っ白い雲みたいな服だった。

「今は5時半かぁ…」

6時から見たいアニメあるんだけど、この娘ほっておく訳にもいかないし。

「仕方ないアニメは諦めるか…」

まあその分この娘の顔でも、見ているか

見れば見るほど可愛い。

うちの学校の一番の美女、「華恋」も、この娘には勝てないと俺は断言できた。

髪が銀髪なのも美しかった。銀色に光り輝く髪が妖艶な美しさを醸し出していた…

俺は彼女の髪を少し触った。凄く柔らかかった。

と、その時彼女が目を開けた。

俺はビククリして素早く手を引つ込めた。  
彼女の目は黄色く輝いていた。

彼女はまるで寝ていたかのように目を右手でこしこししていた。  
俺は挨拶代わりに言った。

「や、やあ。こんにちは。」

彼女は言った。眠そうな声で。

「うにゅう…」  
と。

## a d v e n t u r e 2 : 銀色の娘（後書き）

また、いつ出すかわかりませんが、次も良かったら見てくださーいね  
え w  
では、ばいー

### a d v e n t u r e 3 : フードの男 (前書き)

早い投稿となりましたw

皆さん読んで行って下さいね！

### adventure3：フードの男

俺は今まで16年間生きてそれなりにかわいい娘は見て来た。

小学4年生の時のマドンナ咲さん、そして今の学校のマドンナ華恋。だがそのマドンナ達も今俺の目の前の娘の可愛さに比べればミジンコのようなものだ。

俺はそう思いまくった。

「うにゅう…」と可愛く返事をした彼女に俺は胸を打たれた。かわいいーw

彼女はこちらをじゅっつと見て来た。俺は焦って何か会話をしなくちゃと思い。言った。

「あの、君具合はどう？いたい所とかない？」

彼女は坦々と答えた。

「はい。ないです。ありません。」

改めて声を聞くとその声の大人っぽさにビックリした。

「なんだこのギャップ！反則だろう。」と俺は心の中で叫んだ。

「あなた名前はなんて言うの？」

俺は少し緊張しながら答えた。

「さ、坂井 真斗です…」

「ま、さと。まさと。真斗。覚えたよ。」

彼女がそう言ったので、僕はうれしくて顔がニヤけてしまった。俺は聞いた。

「君の名前は？」

「私？私は名前ないな…」

え？ないってどうゆう事だろう？

それを聞こうとしたら、彼女は言った。

「真斗には、なんか助けてもらっちゃったね。」

「いや助けたなんてそんな…」

ちよつと照れてしまった。

「そういえば何で君はあんな所で倒れてたというか引っ掛かっていたの？」

彼女は言つた。

「追われているの。」

俺はビックリして言つた。

「え？誰に？」

そして彼女は何処かを指して言つた。

「アイツに…」

「へ？」

俺が間抜け声を出した先にいたのは、身長2メートルは軽く在るんじゃないかと思うくらいデカい奴が居た。

フードとコートを来ているそいつは、髪は金髪で短髪。しかも眉毛の所にごっついピアスをしていた。

奴は彼女に向けてこう言つた。

「見つけた。」

回りの空気が凍り付いた。



### a d v e n t u r e 3 : フードの男(後書き)

次はついに戦闘の予定です。  
次も読んで下さいねえ。

ばいにーw

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8626a/>

---

夢旅

2011年1月11日14時48分発行